

「多様性や利便性を兼ね備えた制服」の導入説明会

2022年12月8日(木)

11月11日に行った「全校道徳」の内容を受け、保護者の皆様を対象とした標題の説明会を開催しました。本HPでは、参加いただけなかった保護者の方々に向けて、会の中で校長がお話した内容（説明原稿）をアップします。



全校道徳 「一人一人が大切にされる学校」

2022.12.8(木) 市川中学校 校長 上田真司

以下の内容は、11月11日の全校道徳で生徒に伝えた、今後の市川中学校の在り方、進み方（学校経営）についての校長の思いです。

- 学校とは、毎日の授業をはじめ、先生や友達、先輩・後輩といった多くの人との係わりを通して、生徒一人一人が「将来、自立してたくましく生きていくための学びの場であり、成長の場」であると考えています。
- そこで、私は本校の先生方に、次の2つを常々お願いしています。
- 1つ目は「1時間1時間の授業の準備をしっかりと行い、分かる授業、質の高い授業に努めること」です。
- 2つ目は「生徒や保護者のおもいに寄り添ったていねいな指導を常に心がけ実践すること」です。
- この2つを徹底するのは、「生徒一人一人が大切にされる学校」を創りたいと考えているからです。つまり、**目指すのは「生徒一人一人が大切にされる学校」**です。
- そして、うれしいことに、本校の職員は、この生の思いを受け入れてくれ、それぞれの役割分担のなかで、全力で生徒と向き合い、教育活動にあたってくれています。

- さらにうれしいことに、この先生方の思いに応える形で、多くの生徒が、前向きに充実した学校生活を送ってくれています。
- しかし、その一方で、人との関わりが苦手であったり、学校に登校できない生徒もいます。そのような生徒に対しても、将来、自立してたくましく生きていけるよう様々支援を、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーのお力も借りながら、粘り強く取り組み、「誰一人取り残さない学校づくり」すなわち「生徒一人一人が大切にされる学校づくり」を今後も強力に推し進めようと考えています。
- 「誰一人取り残さない」社会の実現は持続可能な開発目標（SDGs）の基盤となる考え方であり、市川三郷町もSDGsの取組を通して「持続可能で、誰一人取り残さない町」を目指しています。
- SDGsは17のゴール（大目標）と169のターゲット（小目標）からなっていて、市川中でも生徒会が中心になって、アフリカ救援米の活動を通して「ゴール1の貧困をなくそう」の取組や、ペットボトルのふたを回収し「ゴール12のつくる責任つかう責任」の取組を行ってきました。
- そしてこの17のゴールを実現するための**根底となる考え方**がゴール5「**ジェンダー平等を実現しよう**」だと言われています。（ジェンダー主流化）。
- この「ジェンダー」とは生物学的な性別ではなく、長い歴史の中でつくられてきた「男らしさ」「女らしさ」のような社会的・文化的な性別のことをいいます。
- ジェンダー平等の実現に向けては、本校においても性別で分けない名簿や整列等に取り組んできました。また、生徒会活動においても昨年度は生徒総会で選挙規定を見直し、男女に関係なく立候補できるように改正しました。しかし、その他にも取り組むべきことはまだまだあるはずで、今後、生徒会活動においても「これっておかしいよな」という視点を大切にしたい取組を展開してくれることを強く望みます。
- そして、学校として、今回「これっておかしいよな」と考え、今後変えていく必要があると判断したことが、「制服の問題」です。
- 現在、市川中学校では、校則で男子は学生服、女子はセーラーとなっていて、男子にはスラックスを、女子にはスカートを義務づけて、個人による選択の余地（「多様性」）がありません。
- また、暑さ対策や防寒対策、動きやすさといった「利便性」は十分と言えるでしょうか？
- そこで、これを機に**取り組みたいのは「多様性や利便性を兼ね備えた制服」**の導入です。
- しかし、これはすぐにできる「簡単」な取組ではありません。例えば、この「多様性や利便性を兼ね備えた制服」を何て呼ぶかについても、多様性だけなら「ジェンダーレス制服」でよいと思いますが、本校は利便性も追求したいので、「**ユニバーサル（普遍的・万人向け）制服**」としたらと考えているのですが、この呼び名から始まって、いつ、どのようなものを導入するかについて、今後、実際に制服を着用する生徒の皆さんの声、そして経済的な負担をしていただく保護者の考えを十分に反映する形で、進めようと考えています。
- また、簡単な取組でないからこそ、次の世代に先送りするのではなく、みんなで知恵を出し合

い、しっかりした準備をして、今、真正面から取り組むべきことであると考えています。

- 幸い、今の市川中には、この難題に立ち向かえる生徒、職員、保護者がそろっています。
- そこで、本校では、私たちの身の回りには性的マイノリティーが存在し、不安な思いや辛い思いをしている人がいることを前提に、本日の全校道徳をスタートに、生徒、保護者、教職員が、「ジェンダー平等の実現」に真摯に向き合い、「一人一人が大切にされる学校」につなげるべく、「多様性や利便性を兼ね備えた制服」の導入に向けての検討をはじめたいと考えます。
- なお、制服の変更に関しては、様々な考えがあったり、家庭の経済的負担が伴ったりすることから、検討委員会を立ち上げ、丁寧に進めたいと考えています。しかし、今後のスケジュール等を示さなければ、話し合いは進みませんので、あくまでも現時点での構想を提案します。

(1) どのような制服を導入するか。

- ・ 多様性や利便性を兼ね備えた制服
- ・ 具体的には男女ユニセックスなデザインの「**男女兼用型**」
- ・ スカートやスラックス、ネクタイやリボンの組み合わせを自由にできる「**組み合わせ型**」

(2) いつから導入するか。

- ・ **令和6年度の新入生から**導入する予定
- ・ 令和10年度までの5年間を移行期間とし、新旧両方の着用を可能とする。
- この計画通りに進めば、現2,3年生は新しい制服を着用する機会はありません。また、1年生は、3年生になったときに移行期間となることから、希望者は新たに購入し、着用可能となります。
- あくまでも現時点の原案ですので、生徒の声や保護者の声を聞く中で変更するかもしれません。
- 「一人一人が大切にされる学校づくり」をさらに推進したいという思いから、今回「多様性や利便性を兼ね備えた制服」の導入について、生徒を第一に考えた「生徒ファースト」の視点に立って、今後の方向性を提案しました。皆さんにとっては、自分たちが直接着用しない制服変更への取組となりますが、この取組を通して、皆さん**一人一人が「未来の創り手**」となり、市川中がさらに「一人一人が大切にされ、活気のある学校」となるよう頑張っていきたいと思います。

以上の説明を受けた後、生徒にはアンケートに答えてもらいました。詳細は、配付資料 p.5に掲載していますので御参考にしてください。

また資料には、導入にあたっての組織編制と今後の予定も掲載しています。職員からなる「検討準備会」で原案を作成し、PTA執行部の皆さんに入ってください「検討委員会」で審議・検討し、最終案をまとめる予定です。原案作成にあたっては、生徒や保護者等の声をできるだけ反映していこうと考えています。さらに必要に応じて、拡大検討委員会という形で、市川小と東小の保護者の皆さんからのご意見を聞く「拡大検討委員会」を開催する予定です。

12月16日、保護者の意見集約を行います。資料の内容と方向について同意が得られれば、具体的な作業に入っていこうと考えています。